

# 高砂青松

The Rotary Club of Takasago Seisho, Japan

## Rotary Club



人類が私たちの仕事

MANKIND IS OUR BUSINESS

2001~2002年度国際ロータリーのテーマ



### 例会記録 (2001. 9. 26 (水)) 通算 1135 回

ソング

「奉仕の理想」「歓迎歌」

来訪ロータリ  
アン報告  
(田中浩)

植杉安夫様 (高砂R.C.)  
庄司治様 (高砂R.C.)

出席報告  
(佐野)

9月12日 会員数57名 欠席者4名 出席率92.93% <修正による>  
9月26日 会員数57名 欠席者13名 出席率77.19%

ニコニコ報告

植杉安夫 …… 井野先生に大変お世話になって。  
(高砂R.C.)

金谷尊武 …… 本日、卓話をさせていただきます。よろしくお願ひします。

内橋英昭・川崎一生  
…… 金谷君、卓話頑張ってください。

庄司武 …… 森脇先生には楽しいゴルフコンペにおさそいいただき、ありがとうございました。

#### プログラム予定

9月26日(水)	10月3日(水)	10月10日(水)	10月17日(水)
卓話 金谷会員	卓話	休会 定款第4条第1節 第3項による	卓話 職業奉仕委員会 担当

会長 丸山滋夫 幹事 鹿間行雄 クラブ会報委員長 渡辺弥生  
例会日時 毎週水曜日 12:30 例会場 高砂商工会議所会議室(2F)

事務局 高砂商工会議所内 〒676-0064 高砂市高砂町北本町1104 電話 (0794) 43-0500(代)

鹿 間 虹 美・圓 山 善 輝

……朝夕は大分涼しくなりました。夏の間、服装もご自由に  
ということでしたが、もうそろそろそれなりに。

内 海 薫 …… 早退します。

## 幹 事 報 告

### 第 1 0 回 通 算 1 0 8 0 回

1. ガバナー事務所より2001～2002年度研究グループ交換プログラムGSE団員募集のお知らせが届いております。
2. 但馬グループガバナー補佐より  
2001～2002但馬グループI.M.の案内が届いております。
3. 平成13年度赤い羽根共同募金の依頼がきております。  
ボックスにバッジを入れております。
4. 例会変更  
姫路東R.C. 例会変更の訂正  
(誤) 10/29 (月) 職場例会のため姫路赤十字病院  
(正) 11/26 (月) 職場例会のため姫路赤十字病院

## 会 長 の 時 間

前回の高砂R.C.との合同例会を印刷業界の全国大会のため休ませていただきました。合同例会は柿木副会長に代行をお願いして無事にすんだと思います。

出席は第一に考える予定にしています。しかし仕事も大事にしながらロータリーを進めて行きます。今日は金谷会員の初めての卓話の日です。皆様も初めての卓話をした時を思い出しながら初心に帰り、今からのロータリーを充実するよう心がけて下さい。私も努力します。

## 本 日 の プ ロ グ ラ ム

### 卓 話 金 谷 会 員

本日は、新入会に際しましての自己紹介をかねての卓話ということで、この例会の貴重な時間をいただきましてまことにありがとうございます。

まず最初におことわりしておかなければならないのですが、何分話が苦手です。人前で話しをしたことがないので、少し早く終わってしまうかもしれませんが、その節はプログラム委員会の方にご迷惑をおかけいたしますが、後のフォローの方よろしくお願い致します。

それではまず、自己紹介から話をはじめさせていただきます。

生まれ、育ち共、加古川市加古川町

昭和33年12月生まれの42才、イヌ年

4人兄弟の末っ子、性別は男、現在は同じく加古川市野口町で1人の妻と2人の娘の4人家族です。

経歴 大阪工業大学建築学科を卒業後、建設会社に丸15年勤めた上、5年前より自営で現在の仕事をしている。

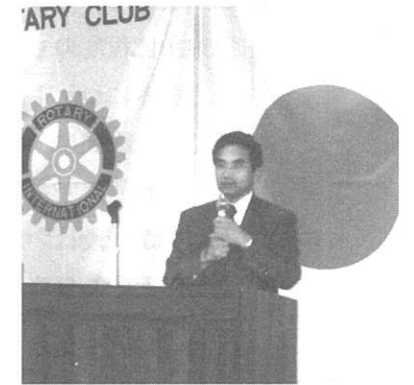
仕事の話については、また後程させてもらいまして、自己紹介と云えばもうひとつ定番となっているのが趣味は何だということになると思いますが、この質問にはいつも困っております。といいますのも、自分自身で趣味といえるものがなく、答えようがないからです。

今回も高砂青松R.C.の入会申込書に趣味の記入欄があったのですが、色々迷った挙げ句、それには旅行と書かせて頂きました。ただ、この旅行というのも怪しいもので普通旅行というのは、事前にあれこれ計画をたてて行くものだと思うのですが、私の場合、学生時代からそうだったのですが、思いつきのように行くあてもなく出掛けて、そのうちになんか適当なところに着いている。そういうふうなものでありまして、一言でいうなら、単なる放浪癖でしかないというようなものです。ですから旅行というにはおこがましいかなと思うのです。

ただ、ここ2年ぐらいのことなんですが、紹介者の川崎さん等から、お誘いをうけてまして旅行にお供させて頂いております。その行先がもっぱらタイ専門であります。それで聞きますに、この高砂青松R.C.もタイのチェンライR.C.と姉妹関係にあるとのことですので、是非一度訪問される際は、ご一緒させてもらえればと考えております。

それと趣味といえは、ゴルフと云われる方も多いと思いますが、これについては先日の親睦ゴルフで、よくわかっていただいていると思いますが、とても人様に語れるようなものではありません。ただ、こんなものではいけないと思ひ心密かに練習することを誓い、2年後ぐらいには大きな声では言えなくても、普通に趣味はゴルフですって言えるようになりたいと考えています。

次に仕事の事についてお話させていただきます。先程の自己紹介の中でもお話いたしました。学校を卒業後、建設会社に勤め中でも最初の7年程は住宅の工事監督をし、後半の8年程はゼネコン的な現場の管理監督をさせていただいて



おりました。そして社歴と共に社内の役職もあがり、受け持つ現場の規模も5億~10億程度のものもまかされるようになりました。しかし、現場の規模が大きくなるにつれ、当然その現場に携わる監督の数も多くなり、ひいては現場所長である人間にとっては、特にこれといった仕事はなく、原価管理のみが仕事という状態でした。ましてや、現場事務所をかまえてやっていれば、上司というものが普段はいないのですから、これ程、気楽なものはありませんでした。ただ反面その仕事内容に充実感はなく、又竣工の時以外は、達成感もない状態でしたので、今になって思えばそれもひとつの現実逃避なのでしょうか。毎晩の如く魚町へ後輩社員を引きつけて繰り出しておりました。しかし、それも決しておいしいお酒ではありませんのすぐ飽きてしまい、かえって自分自身への嫌悪感になっていました。そんな中途半端な状態で年月が過ぎ、年も35を過ぎたところに「自分はこんなまま年をとってしまうのだろうか？ それこそ何のために生まれたのかわからない。」と強く思うようになり、まだ体も動くうちに何とか今の状態からぬけ出して、力いっぱい仕事がしたい！ と心底思い、会社を退職いたしました。しかし、その時点では、力一杯仕事が出来るところへ行きたいと考えているだけで、2・3の会社からうちへ来ないかと誘ってはいただいていたが、未だ具体的には何も決めておらず、ましてや自営とするなどとは、毛頭考えておりませんでした。そして、辞めた時に今度行くところでは、バリバリやろうと決めていましたから、それまではしばらく仕事の事はいっさい考えずにゆっくりしようと思いましたが、実現はしなかったのですが、真剣にインドへ行くことも考えていました。それは即ち、自分自身のことをじっくり見つめるといふか、自身の内面を知りたかったのです。そして2ヶ月間、明けても暮れても、好きな場所へ行って、「ボーッ」と考えつづけていました。そんな風にそれまでの人生について振り返ったときに、つくづく「まわりの人々によって支えられて生きて来た。またこれからは人との関わりの中でしか生きて行けない。」と思いました。そして同時に、同じ仕事をすればなら他人の役に立つ、他人に喜んでもらえるそんな仕事がしたいと強く思うようになったのです。そうするうちに、仕事もしないでいるものですから当然、家計も苦しくなり、そろそろ働かなければと考えている時に知り合いの工務店の方より、神戸で震災の復興の仕事で店舗併用住宅の工事監督をしてみないかと云っていただき、そしてそれをやらせてもらいました。

その現場は、東灘の商店街の中の靴店でしたが、そのときに感じたのが、ある日突然、何の前ぶれもなく一瞬に生活がめちゃくちゃに壊された人たちの元

気さと前向きさでした。自分もこれくらいのギリギリの気持ちで仕事に取り組みたらと思いました。そして、その現場をしている間に、他の知り合いからも色々声をかけてもらい、仕事もいただくようになっていました。そして神戸で感じた思いがきっかけとなり、自分でやろうと決めました。

やりはじめての頃は、現場の管理監督の仕事が多く、後は小規模な工事ぐらいなものでした。それでもまわりの人のお陰で仕事だけは切れずにありまして本当にありがたく、感謝しておりました。そして、今からちょうど3年前に紹介者の川崎さんの取り計らいによりまして、パナホームの仕事をさせてもらえるようになりました。事業も安定するようになりました。ほんとうにこれも人のお陰で、人に支えられている実感をつくづく感じるものです。

自分自身では、与えられた仕事をこなしているだけで、ただ世話していただいた人や、注文主に迷惑を掛けないように精一杯やっているだけのことなのです。

そんな今までの自分の経歴を振り返りますと何度も同じことになりましたが、まとめてみますに、やっぱり人間関係が全ての源ということになるかと思いません。ロータリークラブへの入会にしてもそうです。声を掛けて下さる方がいるからこそ入会も出来る訳で、一人では、どうにもならないものです。

これまでに縁を結んでいただいた方に感謝し、またこれからは自分が支えられるように人の役に立てる人間にならなければと強く思っています。

最後には、なりましたが、今回高砂青松ロータリークラブの入会に際しまして、紹介していただきました澤田様、川崎様に対し、感謝とお礼の言葉を添えまして、私の話を終えさせていただきたいと思えます。御静聴ありがとうございます。